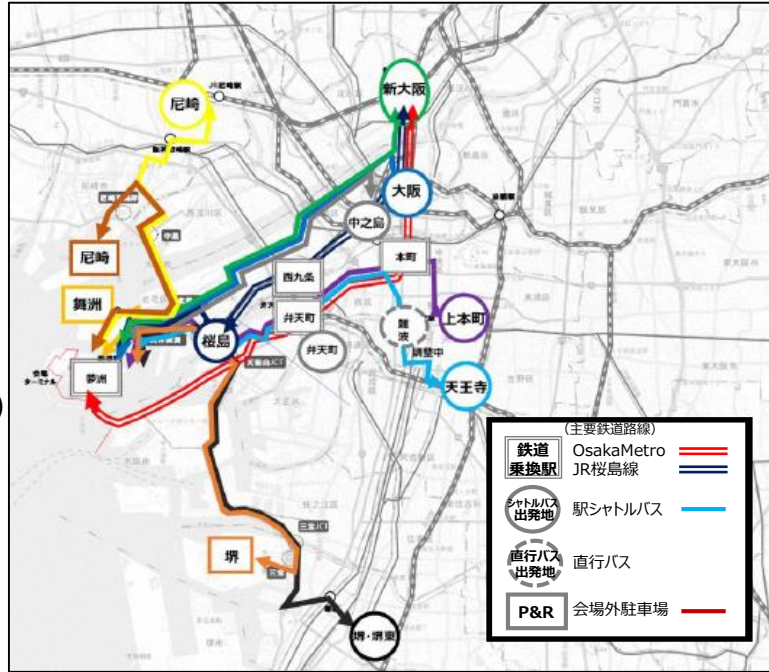


大阪・関西万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン）

策定時期 2022年10月
策定者 2025年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会
目的 万博開催期間中における来場者の安全かつ円滑な来場を実現するための具体方針
主な内容 来場者輸送対策、万博交通による影響、働きかけTDMイメージ

○来場者輸送対策

- ・公共交通機関の利用を呼びかけ
- ・**需要平準化策**
 チケットコントロール
 （会期前半入場券の料金割引等）
 会場への入場時間予約
- ・**供給拡大策**
 鉄道運行本数増便
 （メトロ中央線16→24本/時間など）
 淀川左岸線2期をシャトルバス等の
 アクセスルートとし活用
 阪神高速JCTの交通容量拡大等



○万博交通による影響

- | | |
|--|--|
| 〔鉄道〕
・OsakaMetro中央線への集中
混雑率約140%
→ 安全円滑な誘導等に課題 | 〔道路〕
・阪神高速等の交通状況の悪化
渋滞発生・悪化
→ 社会経済活動に大きな影響 |
|--|--|

<働きかけTDMの目標>

- | | |
|---|----------------------------------|
| 〔鉄道〕
＊混雑率 約120%
混雑率120%は大阪圏の主要区間の平均(R元)
（参考）御堂筋線(梅田→淀屋橋148%)
谷町線（谷九→谷六 124%） | 〔道路〕
＊ 渋滞長が通常時の最大を超えない |
|---|----------------------------------|

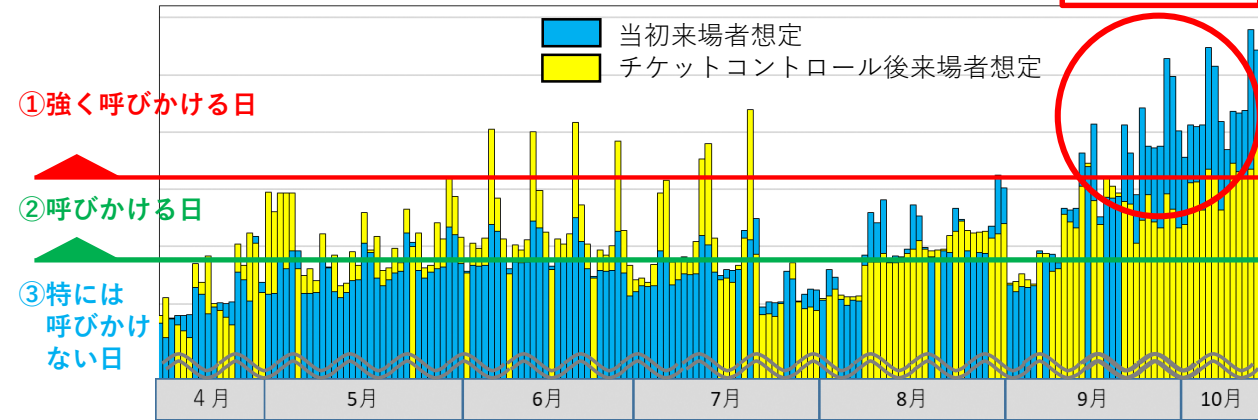
○働きかけTDMのイメージ

- ・来場者輸送対策を実施しても、交通における課題が解消されないことから、一般交通の抑制、分散、平準化を目的としたTDMの実施を働きかける必要がある。
- ・万博開催期間は、6か月と長期にわたるため、**早い時期からTDMの必要性を丁寧に説明**し、実施の程度について段階を設けるなど、府県市民・企業の**協力が得られやすい取り組み等の工夫を実施**する。

OTDM実施のイメージ

- ◆**来場者は会期前半で少なく、会期終盤に集中し大幅に増加**する。
- ◆わかりやすさの観点から3段階程度にTDM実施の強度をわける（カレンダー方式によるメリハリ付け）。

■TDM実施の強度分けのイメージ



■TDM呼びかけカレンダーのイメージ



- ◆**強く呼びかける※日には個別に呼び掛け**、TDMの実効性を高める取り組みを行う。

※「強く呼びかける」のイメージ
 : Osaka Metro中央線を通勤等に利用する割合が高い咲洲等の関係機関・企業に対して、個別に呼びかけを実施し、TDMの実効性を高める取り組みを行う

○今後の進め方（案）

- ・通勤や物流等にかかる一般交通に向けた本会議での検討と万博来場者交通向けの検討が相互に関係することから、万博来場者輸送対策を検討する「2025年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会」と並列して検討・対策を進める
- ・2022年度 会議・検討体制の設置・整理
- ・2023年度 働きかけTDMの対象・メニューの整理、関係者への協力要請
- ・2024年度 働きかけTDMにかかる周知・広報、働きかけTDMの試行